

●とびくす●

『青年・女性建築士の集い 中四国ブロック山口大会に参加して』

板野支部 梶 哲也

6 月 9 日、10 日に行われた青年・女性建築士の集い 中四国ブロック山口大会に参加してきました。

去年の中四国ブロック愛媛大会のとき、建築維新とプリントされたオシャレな T シャツを着た人たちが…萩… 来年は山口県か。山口といえば中学校の修学旅行で秋吉台に行ったという遠い昔の記憶しかない。ちょっと来年のために下調べしようかなと思いつきながら、月日が経つのは早いもので、結局知識のないまま出発の日が来ました。朝 4 時半集合、まだ見ぬ街維新の地山口へ出発です。バスに揺られること 6 時間、萩へ到着しました。

第 1 日目は本大会。

基調講演として、大槻洋二氏に「文化遺産をつなぐ萩の歴史まちづくり建築士の限界と展開にむけて」という講演をしていただきました。

そして、次は地域実践活動報告会です。

今年の地域実践活動報告会は 10 件のエントリーの中から選考委員会により選出された 5 件が報告発表しました。

鳥取県は「地域防災と建築士」、山口県は「周故創新周南市らしい創造に向かって」、高知県は「セミナーを核とした多様な取り組み」、広島県は「歩いてさがそう未来のまち」、我が徳島県は「あしたのひょうたん島プロジェクト 2011～ひょうたん島川の駅構想～」。徳島支部の後藤さんの発表です。

どの活動報告も今後の建築士活動に参考になる内容でしたが、やはり後藤さんのプレゼンが情熱的でよかった気が…

5 人の発表も終わり、審査結果の発表です。

「最優秀賞は…」 会場が静まりかえります。

「徳島県です！」

一瞬、間があり、拍手が湧き上がりました。さらに卓越したプレゼンで全国大会でもいい成績を残してもらいたいです。

懇親会は萩本陣です。温泉も充実していて、いい旅館です。各県の PR タイムでは徳島の PR が終わり、席に着こうとすると、会場から「阿波踊り 阿波踊り」との掛け声が。そこで、前本部青年部長の関口さんの「ちゃんか、ちゃんか、ちゃんか」との音頭で阿波踊りをしながら退場しました。会場は大盛り上がりで、阿波踊りの凄さを実感しました。

2 日目のエキスカーションは、萩の古民家を探索するコース。スタートは旧萩藩御船倉です。

1 年を通して温度が一定で、コンサートも行われるそうです。

次に、旧小池邸土蔵、柏村家、斉藤家、中村家、旧山中家、旧山村家と見学しました。町屋の内部におじゃまさせてもらい、町屋暮らしを実感でき、貴重な体験ができました。

再来年には徳島でこの大会が行われます。山口県に負けないような大会にしたいと思います。



▲徳島メンバーで記念撮影。他県からも愛されています（笑）



▲徳島県が全国大会への切符を手に入れました！

徳島県教育委員会から 大災害時に避難所となる 県内330カ所の 小中高校・校舎・体育館等の安全確保のため 建築士会に協力要請

徳島県建築士会 地域防災研究会 代表幹事 中村 正則

県教育委員会では、昨年、東日本大震災後を受け、大災害時にも児童生徒の安全と地域の避難所としての校舎の安全を確保するため、建築士会に力を貸して欲しいとの協力要請があり、その第一段として、県下の小中高校の全教頭先生を対象に『学校における平常時と災害時の安全点検について』と題した講演を行いました。

5/16 県内小中学校教頭会・定期総会

5/25 県内高校副校長・教頭研修会

以下にお話の概要を記しますが、各学校からは、その地域の建築士会会員の皆さんにも期待がかかっているという気持ちで、お読みいただければと思います。

■講演内容

東日本大震災の後、建築士会では地域防災研究会を発足させた。大災害時には、学校が避難所となることが多いが、建物が被災すると余震による二次災害が発生する恐れがある。そのような被害を防ぐため応急危険度判定の制度があり、研究会でも重要な取り組みと捉えている。

これまで、大きな地震が起こるたびに構造設計基準が改正されてきた。大きな節目となったのが昭和53年の宮城県沖地震。これが昭和56年の新耐震設計法の改正につながった。平成17年の阪神大震災でも、旧基準で建てられた建物の被害が大きかった。東日本大震災で致命的だったのは、地震よりも津波による被害だった。

余震による二次被害を防ぐため、被災建物の危険度を、応急危険度判定士が判定しているが、東日本大震災では、文部科学省から関係都道府県教育委員会に学校施設の応急危険度判定を実施し、児童生徒の安全を確保するよう要請があった。多くの学校施設が避難所として使用され、学校施設の防災機能強化の必要性が認識された。徳島県においては、判定士の大幅な増員と共に、各市町村の各避難所と、地域の判定士とのマッチングを早急に行う必要がある。

東日本大震災後に実施した被害調査報告によると、学校の校舎等に多く見られる鉄筋コンクリート造の建物に関しては、非構造部材の被害、特に外装材の損傷が多く見られた。旧基準で設計された建物の構造被害の程度

は、震度の割に大きくなかったが、災害時も機能を継続すべき公共建築物に大きな構造被害が見られた。また、新基準で設計された建築物には構造被害がほとんど見られなかった。耐震改修を行った学校施設の被害も、概ね軽微であった。

旧基準の体育館などの鉄骨造建築物については、外壁パネルの脱落や天井の垂れ下がりなどが見られ、一部には余震に耐えられない程の被害を受けた建物もあった。

都道府県によっては、学校施設の防災安全点検マニュアルを作成する取り組みが始まっている。外壁やサッシなどの非構造部材の定期的な点検から、平常時に問題を発見して災害時の被害を防止したり、修繕計画に活用したりしている。北海道の場合、各学校の状況により部位別チェックリストを作成し、調査内容・結果等をカルテとして引き継いだり、問題点を報告書にまとめ改善を図ったりしている。

学校の安全点検については、各校でチェックリストを作成することが第一歩となる。建築基準法で学校等に義務づけられている定期報告の機会に、学校・PTA・自主防災会・地域の建築士などが合同で点検を実施するのも良い。大災害の起こる前に、避難所の計画・運営を地域と共に考えておくことも重要である。普段から、学校と地域とが交流を密にし、互いの信頼関係を築き、役割分担しておくことにより、はじめて大災害時に防災の機能が働き、学校の安全を守ることができる。



地域防災研究会の 室戸～県南研修ツアー 報告

徳島支部 高瀬 善郎

5月27日、地域防災研究会の皆さんと一緒に、「津波の記憶」をたどって室戸まで行ってきました。

午前8時に徳島を出発。途中、道の駅「なかがわ」と「日和佐」で、待ち合わせたメンバーと合流。建築士会の10名に、県博物館学芸員の中尾さんを加えた、総勢11名の参加でした。

天気は最高。信号も少なく、快適なドライブで、予定より早く11時前に室戸・津呂山展望台に到着。室戸岬が、海底から盛り上がった大地であることを中尾さんが熱心に解説してくれて、納得できることもあるけど、私はいまひとつピンとこない…。「恋人の聖地」とやらの展望台で集合写真をパチリ。



恋人の聖地

さて、いよいよ室戸ジオパークへ。ここでは中尾さんに加えてインフォメーションセンターのスタッフが我々の案内を引き受けてくれました。とても楽しくわかりやすい解説で、太古の昔からの地殻変動を、興味深く、且つ身近に観察することができました。時空を超えた感動的な景色の中、隆起のポーズで集合写真をパチリ。



隆起ポーズ（室戸）

ジオパークでは、地殻変動の痕跡がものすごくリアルでわかりやすいので、時間を忘れて見入っていたため、予定時間をオーバー。気がついたら13時を過ぎていて、お腹が地殻変動中。海の駅「とろむ」に急行し、かつおのたたきや鯨のフライに舌鼓。

お腹の変動を鎮めて帰り道の見学第1弾は、穴喰の漣痕。ここは若いときにミュージックマラソンで何回も通過した地点。4千万年も前の海底で起きたドラマの痕跡が目の前に現れていると思うと、地球規模のロマンを感じずにはられません。

研修の最後は鞆浦と浅川の地震津波の碑を見学して、過去に起こった津波災害を再確認すること。



石碑（浅川）



石碑（鞆浦）

鞆浦では、1605年と1707年に津波が来襲し、多くの命が失われています。ここには津波の碑としては、四国で最も古いとされる石碑があり、津波の記憶を留めています。裏山には津波避難路が整備されていました。

また、この集落は、まちなみ研究会による詳細な報告書があり、「ミセ」造りの集落を興味深く見学しました。大勢で集落の中を遠慮がちに歩きましたが、「ミセ」で談笑していたお年寄りが気軽に声をかけてくれて、ミセの開閉も実演してくれるなど、港町にはとてもやさしい時間が流れていました。

浅川では昭和21年の南海地震の記録を残した石碑や痕跡をたくさん見ることができました。また、津波避難タワーも見学しました。

今回の研修で理解したことは、「地面は動いている」ということ。室戸岬に限らず、私たちの住んでいる場所も、常に変化しているということです。我々が恐れる地震や津波は、地球の動きの中では「ちょっとしたこと」なのかもしれません。地震や津波が日常的に起こること…なら、備えが必要です。建築士として何ができるのかを考えましょう。是非皆さんも研究会に参加して下さい。



津波避難路（鞆浦）



津波避難タワー

あしたのひょうたん島プロジェクト2011

青年部長 真鍋 憲資

徳島市の中心市街地に位置する「ひょうたん島」この呼び名もずいぶんと定着してきたと感じるようになりました。徳島支部青年部ではこの「ひょうたん島」をステージに積極的に、まちづくりの活動に関わってきました。

今回は平成23年度の「建築士としての公益的活動支援助成事業」として活動させていただきました。テーマをひょうたん島ぐるっと「川の駅」と題し、その内容は「川の駅」シミュレーションクルーズとワークショップの開催といった構成で企画することとします。主な目的としては地域活性と景観啓発活動・アンケートを含むデータの集積、そして今回一番重きを置いたのが連携の強化でありました。

実はひょうたん島周辺で活躍するまちづくり・まちおこしに尽力する団体は数多く、徳島県・徳島市共に行政もひょうたん島という地域要素に力を入れてくる様になっています。それに対し、各団体も期待を大きく持ち活動も活発化してきています。なかでも20代～30代を中心とする青年部世代の活躍は元気を増すばかりに感じられます。ここで我々が活動を積み重ねて来た成果と建築・景観に関する視点について、建築士としての関わりを発揮するチャンスでもあると考えます。平成23年11月27日には「川の駅」シミュレーションクルーズを実施。ひょうたん島周辺5カ所へ仮想「川の駅」を設置し、他団体へはイベント等への協力を依頼。今回の開催にあたっては徳島商工会議所が主催する「とくしまご当地B級グルメフェスティバル」の開催に合わせて実施することにより、互いにイベントの集客力を高めると共に市民や旅行者に対して「川の駅」の認知度の向上にも効果を狙いました。また乗船客に対してアンケート調査を行い、数値データの収集と市民の意識調査も行いました。

平成24年2月17日にはワークショップを開催。

このワークショップには各団体関係者20名／行政関係者10名／青年部5名／大学生5名の計40名12団体の方々に参加いただくことができました。

まず始めに、シミュレーションクルーズでのアンケート結果の報告を行い、ワークショップへ取り組んでいた。今回のワークショップでの狙いはお互いを知る事と、連携を強化する為のきっかけづくりができればと思い、各団体の活動を自己紹介してお互いを知る様に進めてもらいました。また途中でテーブルを移動して他のグループでどのような話題があるか情報交換できる様に設定、多少時間の少なさに悩んだ部分もありますが、各参加者の熱い想いもあり、かなりの盛り上がりを見せる場面もありました。まとめる方向も各テーブルでの話題により多種多様であり、それぞれの個性溢れる成果が会場を沸かせていました。

とくしまの「川の駅」としての期待が高まるなか、沢山の方達の想いが詰まってゆく、これからがんばろうとするまちにもっと元気をそそぎこみ互いにとくしまをもちたてる。

そんな気持ちを繋げる「川の駅」になってほしいと願うばかりであります。



鉄骨製作に関する技術講習会に参加して

阿南・那賀支部 中西 一浩

6月16日に全国鉄構工業協会四国青年部連絡協議会が主催する鉄骨製作に関する技術講習会（東日本大震災の建物被害報告について）に参加しました。

講師には濱尾博文先生（エーユーエム構造設計㈱代表取締役）が福島県郡山市からお越しくださいました。



講習会会場風景

一級建築士、構造設計一級建築士である先生はもちろん応急危険度判定士をお持ちであり、震災2日後徴集がかり余震、2次被害の危険性もあるなか、判定に出たそうです。

応急危険度判定士をお持ちの方はそれなりの心構えをしておいた方がよいかもしれません…。

講習会では主に郡山市のさまざまな鉄骨の被害状況の写真をを見せていただき、説明も丁寧にしていただきました。鉄骨の被害では倒壊している建物はなかったとの事



天井材の脱落

ですが、天井材の脱落が多くみられ、ブレースの切断、変形などがみられたそうです。

体育館では置き屋根式構造ものが多く、アンカーボルトが切断され雨のように降ってきたそうです。



郡山市立中学校体育館

右下 落下してきたアンカーボルト

当時卒業シーズンであった事もあり卒業式が行われていたそうですが、幸いにも終了後震災が起こった為、負傷者などは少なかったそうです。また、避難場所に指定されている場所もあましたが、このような状態の場所では避難場所にも使えなかったようです。

マンション建築の場合は天井材、設備ダクト等が通路に脱落し、ドアもゆがみ、避難が困難であった住民もいたそうです。またエキスパンションジョイント部が破損、脱落もあったようです。

東日本大震災の特徴は、世界最大級のマグニチュード9、最大震度7という規模にもかかわらず建物被害は少ない可能性が高いとの事でした。どうも地震波の周期によるそうです。

今回の講習会に参加して人命にかかわる仕事をしているのだと強く思い、再度よりよい品質のものを製作していこうと心より思いました。

鳴門支部総会の今昔物語

鳴門支部 黒崎 仁資

去る5月12日、鳴門支部の通常総会が正会員、賛助会員併わせて25名の出席のもと盛大に開催されました。全県的な傾向ではありますが、鳴門支部も会員が減少しており、現在正会員73名という状況です。私が建築士会に入会した頃（約20年前）には150名を超えていましたので、半減したことになります。何とか会員を増やさなければと思いますが、なかなか効果的な方法が思い浮かびません。今年は役員改選の年で、立花支部長から堀支部長へとバトンタッチされましたので、新執行部で何とか盛り返していききたいものです。また今年の総会では慣例の事業・決算報告の他に、去年の事業報告として、近代和風建築総合調査として行った大谷の福寿醤油の詳細調査、鳴門市立図書館で行った第2回の鳴門市ユニバーサルデザイン点検会の2つの事業の報告がスライドを使って行われ、なかなか好評でした。

ここまで読むと「鳴門支部の総会って真面目そうだな」と思う人もいると思いますが、昔の総会はすごかつ

たんです。何がすごいかというと懇親会の余興がすごいです。現在も懇親会ではラッキー抽選会があって盛り上がっていますが、そんなもんじゃありません。まるで仮装大賞のような被り物のオンパレードなんです。ある人は化粧をしてジュリー（沢田研二）になりきり、ある人はおでこにホクロを付けて千昌夫、またある人はドレスを着てマリリンモンローといった具合に、こてこての歌謡ショーが繰り広げられるのです。恥ずかしいなんて言ってもらえません。特に青年部のメンバーは逃れられません。仲間とビールを飲んで談笑していると、仲居さん（かなり年配？の女性）にポンポンと肩を叩かれて、「ちょっとおいで」と舞台の横の衣装部屋へ連れていかれます。その後どうなったかは想像にお任せします。

そんな鳴門支部名物？の総会も今は懐かしく感じますが、今のデジタル時代には合わないのかもしれませんが、昔に帰ることはできませんが、鳴門支部は鳴門らしく会員みなさんと楽しく活動していきたいと思っています。



総会風景



河村前青年部長による事業報告



懇親会風景



初参加でテレビをGETしたT氏

新入りのドキドキ山口大会 レポート

徳島支部 西尾 みゆき

6月9日、10日の『青年・女性建築士の集い中国四国ブロック山口大会』に参加させていただきました。

朝4時半に出発し、お昼過ぎに会場へ到着すると、早速ロビーに赤尾さん、岩本さん、近藤さんたちが担当されていたパネルが展示されており、他県の方もじっくり観ていただいている様子。時間がなかったのにもかかわらず、打合せの時よりグレードアップされていました。

その結果、プレゼンテーションにおいて優れているという評価をいただき、『伊藤博文賞』を受賞しました☆



▲パネル審査は、シール投票です！ 1票入りました～

地域実践活動報告会は、後藤さんが発表です。

結果は、なんと☆最優秀賞☆を受賞です!!

事前打合せまでに自主練習していて、真面目～と驚きましたが、さすが練習の甲斐あって実力を発揮されました。

本大会終了後の大懇親会では、W受賞という事もあり、祝杯を堪能、堪能、また堪能～のうちに1日目終了。

そして、2日目は、お楽しみのエキスカージンです♪
徳島チームは萩の古民家を探検するコース(港町)です。

古い建物やまちなみ好きの私としては、遠足気分でテンションアップ!!いざ出発～



▲授賞式の様子 後藤さん緊張のご様子



▲旧萩藩御船倉と辛口ガイド

旧萩藩御船倉では、中に入ることができ、側壁の石積みの手法や昔どのように使っていたか、今はミニコンサート等を開催していることを教えていただきました。

引き続き、改修工事中の蔵や居住中の古民家の中などを見せていただいたのですが、その中でも私が特にいいと思ったのは『中村亀吉商店』さんです。店舗部分は昔の航海に使っていた道具などを展示、居宅部分は欄間や障子、家具、装飾品の至る所にオシャレなデザインが施されていて、粋な職人の技を観る事ができました。



▲井内さんが汽笛みたいな鳴物を鳴らしてます♪

ほかの古民家でも建物の外観、中庭など、職人技のテンコ盛りです。その時代の職人の才能や遊び心に感激し、嫉妬し、魅了させられる素敵な空間ばかりでした。

いろいろとお世話していただいた方々、本当に楽しい旅をありがとうございました♪

女性部からのお知らせ

■勉強会—素敵な建築家の話を聞こう(1)

日時：8月4日(土) 19:00～ 場所：未定

講師：内野輝明氏 ※日程変更しています。

■女性部建物見学会 11月17日(土) 京都・奈良方面

●士会だよりー本部●

明日からできる木造住宅耐震リフォームセミナー

徳島県を中心に進められている木造住宅耐震化の一環である「住まいの安全・安心なリフォーム支援事業」のセミナーを、下記のとおり実施します。難解と思われるがちな制度の解説と補助金申請書類の作成方法を分かりやすく説明します。またセミナーに併行して会場で個人相談会を実施しますので、ぜひご参加下さい。

- 1. 開催日時：平成24年 8 月 5 日(日) 13：30～17：00
- 2. 開催場所：徳島県建設センター 7 階
- 3. 定員：120名
- 4. 受講対象：住宅所有者、耐震改修工事の設計者・施工者
- 5. 参加費：無料
- 6. お問い合わせ：徳島県建築士会事務局
TEL 088-653-7570 FAX 088-624-1710

●士会だよりー本部●

〇〇支部安心リフォーム設計・施工者の募集

「住まいの安全・安心なリフォーム支援事業」で作成する〇〇支部安心リフォーム設計・施工者名簿に掲載される、設計者と施工者を募集します。掲載されると士会本部や支部でおこなう耐震支援事業に参加し、耐震リフォームを希望する住宅所有者の紹介を受けることができます。

- 1. 応募の条件：建築士会会員である。設計者は木造住宅耐震講習会を受講し、木造住宅耐震診断員・耐震改修アドバイザー名簿に掲載されている者。施工者は木造住宅耐震講習会を受講し、木造住宅耐震改修施工者等名簿に掲載されている者。名簿に登録された場合は、8 月 5 日セミナーに必ず参加する。
- 2. 応募方法：士会事務局に連絡し、送られてくる応募用紙に名前・支部などを記入し、返送して下さい。
- 3. 締め切り：平成24年 7 月18日(木)
- 4. お問い合わせ：徳島県建築士会事務局
TEL 088-653-7570 FAX 088-624-1710

●士会だよりー徳島支部●

平成24年度
建築士会バーベキュー&キャンプ大会のお知らせ

日 時：平成24年 7 月28(土) 29(日)
場 所：コットンフィールド(徳島県名西郡神山町神領字西上角272)
TEL：088-676-0803 ※神山温泉の近くです！
参加費：大人¥3,500/人 子ども¥1,500/人程度を予定しています。

建築士会本部行事案内 平成24年

7 月			8 月		
1 日	二級建築士学科試験	(徳島大学工学部)	1 日	1 日会	(士会会議室)
2 日	1 日会	(士会会議室)	3 日	安心リフォーム相談	(〃)
6 日	安心リフォーム相談	(〃)	4 日	二級建築士製図講習会	(〃)
11日	建築相談	(〃)	5 日	安心リフォームセミナー	(建設センター)
13日	安心リフォーム相談	(〃)	8 日	専攻建築士評議会	(〃)
18日	建築相談	(〃)		建築相談	(士会会議室)
20日	安心リフォーム相談	(〃)	10日	安心リフォーム相談	(〃)
21日	二級建築士製図講習会	(〃)	12日	まちなみ連	
22日	一級・木造建築士学科試験	(徳島大学工学部)	14日	まちなみ連	
25日	連合会理事会		17日	安心リフォーム相談	(士会会議室)
26日	専攻建築士下審査	(士会会議室)	18日	二級建築士製図講習会	(〃)
27日	安心リフォーム相談	(〃)	24日	安心リフォーム相談	(〃)
28日	二級建築士製図講習会	(〃)	25・26日	二級建築士製図講習会	(〃)
29日	徳島市総合防災訓練		29日	二級建築士製図講習会	(〃)

28日にバーベキュー。チェックアウトは29日10時になります。
普段、家族サービスをしていない方、神山の自然に抱かれて癒されたい方、そしてバーベキューで飲むビールが大好き！という方まで多数のご参加をお待ちしております！

※お申し込み先

建築士会徳島支部 事務局 西條 (TEL 088-653-7570) または、
徳島支部 後藤 (TEL 090-8696-4925) まで
※準備の都合上、7 月19日までに申し込みをお願いいたします。

●士会だよりー徳島支部●

阿波踊りのお知らせ

今年も 8 月12日(日)と 8 月14日(火)の 2 日。徳島市の演舞場や踊り広場に繰り出す予定です。当日は懇親会で気分をのせた後、街に繰り出します。

練習は 7 月24日、26日、31日と 8 月 2 日、7 日 9 日の火・木曜日、徳島中央公園鷺の門広場で18時30分～20時に行います。

初めての人、子ども達、多くの会員の参加をお待ちしております。浴衣や子どもの法被は支部で用意します。なお、今年は20回目の記念です。多数の参加をお待ちしております。

【問合せ先】徳島支部事務局 TEL 088-653-7570 西條まで

●とくしま建築住宅センターだより●

確認検査業務区域の拡大

皆様方のご支援を賜り業務を進めて参りましたが、このたび諸般の状況を考えまして、確認検査の業務区域を拡張いたしました。

今後とも、引き続きよろしくお願い申し上げます。

業務区域 徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、吉野川市、阿波市、石井町、松茂町、北島町、藍住町、板野町及び上板町の全域
追加した区域 吉野川市、阿波市、板野町、上板町の全域
業務開始年月日 平成24年 6 月 1 日

〒771-0134 徳島市川内町平石住吉209番地 5
(株)徳島健康科学総合センター 3 階
TEL 088-665-6577 FAX 088-665-6618

編集後記

- ・とくアマさん、お誕生日おめでとうございます!! (源太郎)
- ・7 月 1 日はイベント盛りだくさんですね！おめでとうございます☆ (ひとはたうさぎ)
- ・7 月 1 日といえば建築士の日、二級建築士学科の試験、海開き山開き、そして、とくアマの誕生日です。 (とくアマ)